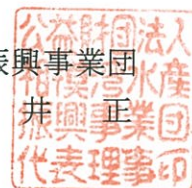


公財相水第18号
平成27年9月18日

関係各位様

(公財)相模湾水産振興事業団
代表理事 武井 正



第39回「相模湾の環境保全と水産振興」
シンポジウムの開催について

初秋の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本年も標記「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムを来る10月20日(火)
別紙プログラムにより開催しますので、ご多忙中のことと存じますが、ご出席賜りま
すようご案内申し上げます。

＊ 小田原市役所が耐震工事中につき、駐車台数が大幅に制限されていますので、
ご来場には公共機関をご利用ください。

第39回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム

－相模湾の定置網漁業の現状、課題と今後の方向について－

水産海洋学会

共 催 (公財) 相模湾水産振興事業団
小田原市

日 時：2015年10月20（火） 09：30－15：00

会 場：小田原市生涯学習センターホール

コンビーナー：平野敏行（東大名誉教授）、松山優治（東京海洋大名誉教授）、武井 正・岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団）、鶴飼俊行（神奈川水技セ）

開会のことば：岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団） 09：30－10：00

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長）

加藤憲一（小田原市長）

武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団理事長）

座 長：杉本隆成（東大名誉教授）、鈴木秀彌（水産海洋学会名誉会員）

基調講演

外から見直す日本の定置網漁業－現状と今後の課題 10：00－10：50

有元貴文（東京海洋大）

話 題

1. 若狭湾における定置網漁業と魚群行動調査の可能性 10：50－11：30

鮎川航太（福井水試）

・・・・・・・・・・昼 食・・・・・・・・・・ 11：30－12：30

座 長：鶴飼俊行（神奈川水技セ）、山本章太郎（神奈川水技セ相模湾試験場）

2. 相模湾における定置網漁業の漁獲量と魚種組成の推移 12：30－13：20

神奈川県海域：高村正造（相模湾試験場）

伊豆東岸域：鈴木勇己・長谷川雅俊（伊豆分場）

3. 定置網で漁獲された魚類の流通・販売などによる魚価向上の取り組み 13：20－14：00

泉澤 宏・林 晋也（網代漁業株式会社）

4. 総合討論：工藤盛徳（東海大名誉教授） 14：00－15：00

(1) 現場からの意見

① 加藤 孝（大磯町漁協） ② 朝倉一志（真鶴町漁協） ③ 出口 昇（小田原市漁協）

(2) 討 論

閉会のことば：川崎秀一（（公財）相模湾水産振興事業団）

開催趣旨：わが国の漁業生産量が500万トン以下になった2000年頃から沿岸漁業の生産比が約3割まで高まり、そのうちの定置網漁業が4割を占めるようになった。特に相模灘を含む相模湾漁業では定置網漁業の生産比が高く、神奈川県海面では60%を超え、静岡県海面では70%前後を生産する基幹漁業であり、回遊性魚類を主体にいろいろな種類の魚類を1～1.5万トンを生産する重要な食料産業である。

その経営は主要魚種の漁獲量と魚価に強く支配される。数年前から主要魚種のマアジが減少し、ブリ類が増え始め2015年冬～春には20数年ぶりに10万尾を超すブリ類が漁獲されたが、昔のような魚価にはならず課題として残された。全国的には漁業の衰退と高齢化が叫ばれる中、相模湾では若い人が定置網漁業に従事し、流通・販売などの魚価向上に取り組むなどの明るい動きが見られるようになった。

今回のシンポジウムでは、まず日本漁業における定置網漁業の現状、課題と今後の方向について講演をお願いする。次いで安定した漁獲を目指した定置網周辺の新たな魚群行動調査への取り組み、相模湾の定置網の漁獲量と魚種組成の推移、定置網で漁獲された魚類の流通・販売と魚価向上への取り組み、などの話題提供をお願いする。総合討論では、毎日定置網漁業に従事している漁業者から直接意見を伺い、定置網漁業が抱える課題と今後の方向について論議し、その成果を社会に還元していきたいと考えている。

(旧小田原市中央公民館)

